

図書図書委員会による図書集会

わらどん

平成27年2月5日

発行責任者
早川北小学校
校長 一瀬純司

楽しいゲームをしたり本の紹介をしあったり

十二月十日(水)、図書園芸委員会が企画・運営する『図書集会』がありました。

朗読は、とても感銘しました。文章もよく書けていました。続いて、司書の河上先生のアニメーション。今回は絵本を朗読して、登場人



特徴を短く話して、該当する本の表紙のコピーをカルタのようにとるというものでした(上の写真)。最後に、一人一人が自分のお気に入りの本の紹介をして、とても楽しい集会が終わりました。

物についていろいろなクイズを出してくれました。

一番盛り上がったのは、本のカルタ。本の

みかんをいただきました

静岡の古川さんに毎年いただいています

十二月十九日(金)長年、早川町の保育所と小学校に、ご自分が育てたおいしいミカンをお届けしてくださっている、静岡県の古川さんご夫妻が来校しました。

古川さんは児童に、

「小さなミカンと大きいミカンを持ってきました。食べ比べてみてください。小さい方は甘くて、大きい方はさっぱりしている、みんなちがってみないいいですね。」と、金子みすずさんの詩にちなんでお話をしてくれました。



終業式でも一人一人が主役です

毎回、全員がノー原稿で、スピーチします！

本校では始業式や終業式のたびに、児童が全員、前に出てスピーチを行います。もちろんノー原稿です。全員が話し終わるのに、毎回二十分くらいかかります。緊張しながら話す子、楽しそうに話す子、それぞれですが、誰もが一生懸命に話そうとしていてすばらしいです。

これは、他の小学校にはない、極小規模校の早川北小学校だからこそのことです。

す。こつこつこの繰り返しのよって、人前でも自分の考えを隠せず話せる人に育っていくのだと思います。

二学期の終業式で一人一人が話したことは、本校のブログ『わらべ日記』の、十二月二十二日のところに書いてあります。他の始業式や終業式の日のブログにもそれぞれ載っています。

ぜひ一度ご覧になってください！



今年、子どもたちのお礼の寄せ書きをお渡してきました、古川さんとても喜んでくださいました。

出会った『言葉』

北海道にある従業員十七人の企業で、国産の安全格安なロケットを飛ばしている『植松電機』。そのホームページにこんな言葉が書いてありました。

「どうせ無理」という言葉は、人の可能性を奪います。興味を持たなくなり、やる前に諦め、考えなくなってしまう。

「だったらこうしてみたら？」という言葉は、人の可能性を広げます。やったことが無いことに挑戦し、あきらめず、より良くなるよう求めようになります。

教育関係者として肝に銘じたい言葉です。



☆小学校の強み☆

早川北小学校のような極小規模校には、次のような強みがあると考えられています。

①人間関係力が伸びます

少人数クラスでは人間関係が固定しがちなので、性格も立場も自分とは違うことをお互いに認識し、協力し合って事にあたっていくかなくてはなりません。人間関係に逃げられない環境の中で人間関係力が伸びていきます。

②社会性を育めます

社会に出れば異年齢集団だらけ。小規模校に毎日ある異年齢集団活動は、社会性を育むことができます。

③コミュニケーション能力が伸びます

毎日毎時間発言して意見交換をしている小規模クラスの児童生徒たちには、コミュニケーション能力がしっかりと伸びます。

④意欲や成長が引き出せます

行事等、例えば本校のわらどんぐり祭りや持久走記録会、水泳記録会等の取り組みを通して、児童は、活動への意欲を十分に持ち、成長していきます。一人一人に役割と責任のある小さい学校だからこそ、全員がやる気で取り組むことができます。

⑤多様に見よう・考えようとしています

授業中、一つの課題に対して、いろいろな角度からさまざまな考えようとしています。人数が少ないので、何も考えずに誰かが発言するのを待っているということができません。多様な見方・考え方をしようという態度が自然に身につけていきます。